

健康と福祉のまちづくり計画推進調査結果報告

「人との関わり」「健康と予防」がキーワード

平成19年度、市民3,000人を対象に実施した「健康と福祉のまちづくり計画推進調査」の調査結果を報告書としてまとめました。本調査結果の抜粋を何点かご紹介します。

また、本調査結果は、3月25日（火）に生涯学習センターで報告会を開催しました。詳しくは次頁で紹介します。

「健康と福祉のまちづくり計画推進調査」では、4種類の調査を実施しました。

調査票1 対象者…要支援者（介護）＜対象者400人／回収率93.3%＞

調査票2 対象者…要介護者（介護）＜対象者400人／回収率57.3%＞

調査票3 対象者…65歳以上の一般高齢者（要介護認定者を除く）＜対象者1,000人／回収率66.1%＞

調査票4 対象者…39歳以上64歳までの国保加入者、障害者＜対象者1,200人／回収率51.5%＞

介護編

■介護が必要になった時、どこで暮らしたいか？（調査票1、2）

→高齢者の約60%の人が在宅（自宅）での生活を希望

■在宅で生活する上で、不安や心配なことは？（調査票1、2）

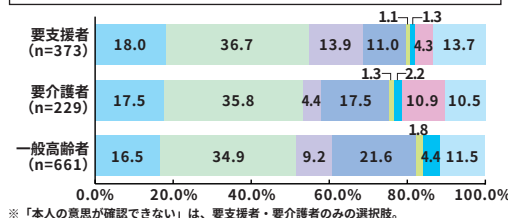
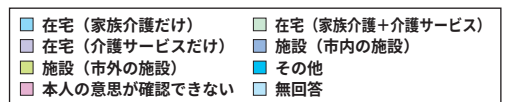
→約40%が、自立した生活ができなくなったときの事と回答

■最近の生活で当てはまることは？（調査票3）

→「最近、外出が減った」「物忘れがひどくなった」「新しいことに挑戦しなくなった」と答えた65歳以上の高齢者が多かった

■ボランティアへの参加意向は？（調査票3）

→65歳から74歳までの高齢者を中心に関心が高い



核家族化、世帯の細分化が進む中、高齢になっても地域の中で暮らし続けていける地域の受け皿づくりが必要。

趣味を持つことや、ボランティアなどの生きがいづくりが、健康な高齢者の維持につながります。個人、地域、行政それぞれの取り組みが必要。

地域の人的資源の活躍できる環境づくりが必要。

要介護認定者の状態の悪化を食い止め、元気な高齢者が要介護状態になることを予防する「介護予防」の取り組みを進め、高齢者が自立した生活ができるよう支援していくことが必要。

高齢者は、自立できた生活ができなくなった場合でも、その多くが在宅での生活を望んでおり、それを支えるための地域の役割が重要となってきます。

介護が必要になることは、誰にでもおとずれる可能性があり、それは避けることができません。しかし、その状態に至るまでの時間を遅らせることはできます。その為には、若い時からの食生活を含めた日常生活、高齢になっても積極的な介護予防となる生きがいづくりが重要です。

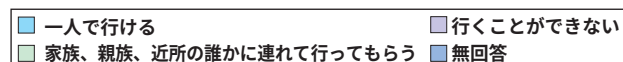
防災編

■災害時の避難場所の認知度は？（調査票1～4）

→要介護認定を受けている市民の約6割しか知らない

■災害時、一人で避難所に行けるか？（調査票1～4）

→要支援・要介護者のほとんどが一人では避難できない状態（約90%）



高齢者で、かつ要支援・要介護認定を受けた方々になると、そのほとんどが自力での避難ができなくなることが分かります。行政だけでは網羅できない地域の連携、協力が求められるところです。

障 害 編

■生活上の困りごとはなんですか？（調査票4）

→老後について（40.3%）

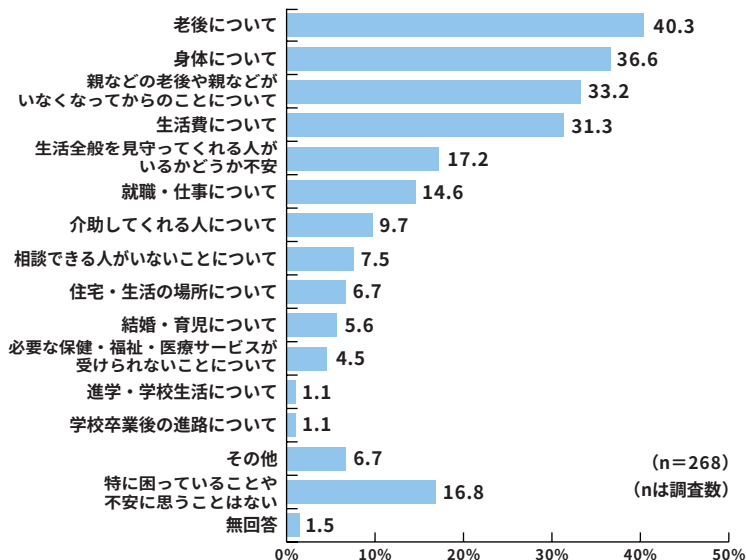
■障害者の就労状況は？

→36%の人が定期的な就労があるが、約60%の人は定期的な収入がない状態

■障害者が働くために必要なことは？

→職場の仲間の理解、企業の積極的な雇用

障害者は就労の問題をはじめ、生活不安が高いことが分かります。積極的な雇用による生活保障が求められています。



今回の調査を通して

誰もが健康で安心して暮らしていける「健康と福祉のまちづくり」には、「市民」「地域（企業を含む）」「行政」がそれぞれの持てる資源（人材、能力、知識、資金）を出し合い、補い合い、共有し、創りあげていく必要があります。

また、健康と福祉のまちづくりを実現していくためには、日頃からの「人との関わり」と、市民一人ひとりができることから始める「健康と予防」ということが重要です。

今後、各施策の実施にあたって、今回の調査結果から見てきた課題や問題点についての内容を踏まえながら、誰もが安心して暮らしやすい健康と福祉のまちづくりの実現に向け努めていきたいと考えています。

健康と福祉のまちづくり計画推進調査報告会に200人の参加

健康と福祉のまちづくり計画推進調査結果の報告会を、3月25日（火）生涯学習センターで開催しました。

報告会では第一部の調査結果報告に続き、第二部に地域からの実践報告として古飯区の東原一馬区長から「古飯健康よくばりクラブのはじまりの動機と現状について」という内容で、古飯区による健康づくりの実践内容と課題についての報告が行われました。

また第三部の健康



講演会では、AHP理事長 丸山泉氏による「あなたの力で健康小郡を」という内容で、医療の立場からの一人ひとりができる健康づくりの講演が行われました。

会場は、ユーモアを交えた講演にリラックスした雰囲気での報告会となりました。

本調査結果をこれからの有効に活用していきたいと考えています。
地域などで活用したい等のご要望がありましたらご連絡ください。

介護保険課 ☎72-2111 内線452～454

第2回 介護教室開催のご案内

大好評だった第1回目の介護教室に引き続き、第2回目の介護教室を下記の日程で開催します。

介護でお悩みの人、介護のことをちょっと考えてみようと思われている人等、気軽に参加してみませんか？

一概に「介護」と言っても、「介護をする側」と「介護を受ける側」では、同じ介護でも希望する内容が異なることが多々あります。グループホーム幸では、介護を受ける側の立場での介護教室を開催しています。

第2回目は、「認知症」について、認知症とはどういうものか、どのような対応が良いのかなどの内容です。

興味のある人、お知り合いに介護でお悩みの人などがいましたら、是非、ご参加ください。



- 日 時 5月24日（土）
午後2時～3時
- 会 場 グループホーム幸
1階フロア
- 内 容 ●物忘れと認知症の違いとは？
●簡単なチェックシート
●どのような対応がいいのか？等々
- 定 員 20人
- 申込先 グループホーム幸
☎41-2323
ファクス41-2311